

## 【事業実績】

ユネスコ「世界の記憶」に登録された「山本作兵衛コレクション」の所蔵館として、田川市石炭・歴史博物館（以下、「博物館」という。）のユニバーサル・ミュージアム化を目指し、「国際交流拠点形成事業」と「子ども学芸員育成事業」を実施した。

### 【1】国際交流拠点形成事業

田川市における国際交流拠点として博物館の新しい価値を創造するため、「海外訪問客等に向けた環境整備」と「異文化交流事業」を実施した。前者では、山本作兵衛炭坑記録画の多言語ナレーションを館内音声ガイドとして活用するシステムを構築し、次年度より運用する予定である。また、繁体字とドイツ語の博物館及び山本作兵衛コレクションのパンフレットも作成し、繁体字は台湾、ドイツ語版は2020年東京オリンピックで田川市がキャンプ地となっているドイツとの交流を深めるために活用する。

「異文化交流事業」では、田川市の学芸員らが台湾のフォトン国民小学校、瑞芳高級工業職業学校、台湾大学にて出前授業を行った。児童・生徒らは田川市の炭坑文化に触れ、将来は田川市の学校と交流したいと話した。また、台湾の学芸員らも田川市を訪問し、市内猪位金学園の小学5・6年生を対象に出前授業を行った。児童たちは、台湾の学芸員らへ「台湾に山本作兵衛さんみたいな人はいますか?」「台湾にも炭坑の煙突はありますか?」などと英語で直接質問した。このように、博物館の活動が契機となり、次世代の国際意識を大いに高めることができた。

（※台湾交流事業は、田川市 HP：<https://www.joho.tagawa.fukuoka.jp/kiji0036681/index.html>へ掲載、台湾・学芸員らの田川市訪問は、西日本新聞：令和元年11月30付朝刊、広報たがわ：令和2年3月15日号に掲載）

### 【2】子ども学芸員育成事業

田川市内5・6年生を対象に、子ども学芸員育成事業を行った。4名以上の児童が参加して、6回にわたるワークショップ等を行った。内容は、博物館が石炭産業をテーマとすることから、博物館の炭坑資料や「山本作兵衛コレクション」、国史跡「三井田川鉱業所伊田坑跡」などを対象とし、子ども学芸員の視点から博物館のユニバーサル化を図るため、資料キャプションの点字化やイラスト・写真による史跡マップ作りなどを行った。参加した子どもからは「とても楽しく学習できた」との感想があったが、3月の修了式が新型コロナウイルスの関係で延期となったため、残念ながら持ち越しとなった。

#### 今後の課題

本事業は、ユネスコ「世界の記憶」の所蔵館として、博物館の新たな価値を創出し、あらゆるカテゴリーの人々が博物館を容易に利用できるユニバーサル・ミュージアムを目指す取組みである。成果指標としていた博物館入館数は、今年度4～1月は前年度同期間と比べて9%の増加となったが、新型コロナウイルスの影響で最終的には2%の増加にとどまった。田川市は「先導的共生社会ホストタウン」に認定されていることもあるため、今後も引き続き博物館のユニバーサル化を加速して、少しでも多くの博物館利用者数を獲得していきたい。



台湾・フォトン国民小学校



台湾・瑞芳高級工業職業学校



田川市・猪位金学園①



田川市・猪位金学園②



博物館資料の調べ学習



史跡マップ作りのフィールドワーク